

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272400342		
法人名	有限会社修清		
事業所名	グループホーム宝森		
所在地 (電話番号)	〒037-0300 青森県北津軽郡中泊町中里字宝森291-3 (電話) 0173-69-1192		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年1月15日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成 年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	11人, 非常勤 1人, 常勤換算 10.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	3,500 ~ 冬期5,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井沼医院・井沼洋クリニック・今歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの他に障害者向けアパートなどが敷地内にあり、地域の中で福祉分野の一端としてとけこんでいる様子が随所に感じられる。利用者本位のサービスと地域に根ざした活動、又プロとしての専門性をもとめた運営方針に職員が賛同し、サービスに力を入れていることもうかがえる。施設は広い田園地帯の中にたたずみ、東には津軽半島の山々も見渡せて広々とした雰囲気がある。代表者は地域の福祉ネットワーク作りにも積極的であり、交流も盛んである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の健康診断についてはかかりつけ医の支持のもと、必要に応じて行われている。ヒヤリハット報告書については具体的に実施され、事故防止のために役立てられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価後の課題については、職員会議で話し合いながら改善に向け取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者の状況についての報告、問題点や改善点についての報告・相談・検討がなされている。また、緊急時の地域住民との連携や地域行事への取り組み等について話し合われており、課題等の内容については次回の会議で報告されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	その都度、代表者を中心に対処の方法が検討され、できることは実施されており、年に一度開催される家族会等で報告されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ねぶた祭りや地域の文化的な催しに参加したり、緊急時のボランティアを施設独自で登録し、協力を依頼するなど連携がみられる。しかし、夜間の行事の参加等に関しては職員の労働時間上、困難になってきており、課題である。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中で安心して生活できるよう、運営者自ら、積極的に活動しながら、地域密着型の理念がつくりあげられている。職員は良く理念を理解され、確認しサービスに活かされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者本位のサービスが提供できるように、職員会議や申し送り等で話しあう機会をもっている。又、ケアをふりかえり、毎日の処遇においても理念を確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	積極的に地域の活動や行事に参加し、行事の企画をしている。それを職員が理念に添って良く理解され、地域の一員として活動に努めている。夏は地域のねぶた祭りに参加され、冬は場所を移して忘年会を開催し、地域の方や家族、利用者が交流が持てるよう活動されている。 又、地域のボランティアを事業所独自に登録し、交流がもたれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義やねらいについて、運営者や管理者、職員は理解している。評価後、課題については、職員会議等で話し合いながら、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年は年3回開催し、事業所からの報告とともに、参加メンバーから意見を頂き、それを参考に改善する等、大切な場として位置づけされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者は積極的に担当窓口に出向き、事業を行って行く上での運営や、サービスの課題について報告したり、又協議したりしながら良好な関係を継続されている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関しては入居時、管理者が利用者や家族に説明されているが、職員は権利擁護に関しては知識や理解が不足している。</p>		<p>職員が、必要な時に支援できる体制ができるように、勉強会を開催したり、研修に参加したり等学んで行く機会をもてるよう検討が望まれる。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は、虐待防止関連法について学ぶ機会をもち理解している。虐待についての報道等があった場合は、管理者が中心となり、内容をふりかえりミーティング等で話しをしながら遵守に向けて対応がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には、十分な時間を取り丁寧に説明している。重度化した場合のリスクについてもあらかじめ説明され、又看取りの対応についても納得していただいた上で同意を頂いている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の事業所での様子や活動を、おたよりで報告したり、面会時に報告している。金銭の出し入れについての報告はされているが定期的に行われていない。</p>		<p>金銭の出し入れ、出納帳の報告は家族に対して定期的に報告される事が望まれる。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には、何でも言ってもらえるような雰囲気作りしている。年に1回(6月第2日曜日)、「家族との交流会」を開催し、家族から意見や要望を出して頂き、運営に反映させている。また、事業所以外でも、市町村の窓口など意見や苦情が言える機会がある事を説明されている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、入居者の状態や生活の流れ、又利用者の精神面の安定を図る為に、異動や退職は必要最小限に抑えるよう努力されている。やむを得ない場合は、その時期を配慮し引き継ぎされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修やスキルにあった研修、又スキルアップできる研修に全職員が参加できる体制がある。又、研修後は報告書並びに報告する機会をもち、情報の共有を図っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は事業者団体や連絡会等、同業者や他法人の事業者との交流や連携の必要性を認識され、積極的に参加、方針、姿勢を示している。実際に職員が同業者と交流する機会があり、サービスの向上に役立てられている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居される場合には、本人や家族との話し合いを十分にもち、本人と家族にあった利用開始の時期など調整している。又、見学して頂いたり、職員が自宅へ訪問したりしながら、安心して利用して頂くよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と共に生活をし、教えて頂きながら、お互いの思いが共感できるよう努めている。利用者から「腰痛に気をつけて」等、労って頂いたりしながら和やかに生活している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言葉や行動を観察し、把握が困難であったり不確かな場合であっても、利用者の視点に立ち、その思いを推し測る等して利用者の希望に沿えるよう取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向や家族の希望等について、話し合いを通じた把握や理解に努めているが介護計画の課題や日課表に生かされていない。		利用者の意向や希望を計画の中に取り入れ、画一的な計画にならないよう検討して頂く事が望まれる。
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は設定された期間毎、又利用者の状態や変化に応じて見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケアや認知症による行動障害の対応、ねぶた祭りや町民祭などの参加、希望に応じた墓参りや旅行など、利用者のニーズに対して多機能性が活かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域に密着された病院との連携体制がもたれている。状態に応じて訪問して頂いたり、要望による以前からのかかりつけ医の受診も出来るよう支援されている。又家族とも状態報告等情報の共有ができています。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、看取りについて指針の説明と話し合いが行われ同意を頂くと共に、状況に応じて、その都度話し合いを繰り返し、関係者全体の統一を図り、支援されている。訪問調査時も、清潔な環境と医療との連携を図りながら、職員の暖かい言葉がけにより、穏やかな表情で終末期を迎えられておられる方がいらっしゃった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時の対応等、利用者の尊厳を守るよう、言葉掛けや対応に留意されている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、在宅時の利用者の生活パターンを把握し、例えば起床時間等は個人個人のペースに配慮しながら、利用者の希望に沿って支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は見守りしながら、利用者の食事摂取状況の把握や食べこぼしのサポートを行っている。訪問時は「小正月」で、季節感や地域の伝統にあった献立で、器等、日々の食事とはまた違って変化があり、利用者の方も喜んで、ゆったりと食事されていた。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週3回の入浴日の設定で実施されている。利用者の希望により、その日以外でも入浴できる体制は持たれている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴を把握し、洗濯や清掃等の家事、編み物等の趣味を生かしたり、鳥や金魚の飼育をしながら、在宅での生活を継続できるよう、又生き甲斐がもてるよう支援されている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の利用者の希望に添って近隣に買い物に出かけたり、季節を感じる事ができるような場所を設定し外出したり、一人ひとりが外出が楽しみになるよう支援されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会や研修に参加し、職員間で共有し認識をもって身体拘束のないケアを提供している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、利用者の行動等を把握しながらも、自由に生活してもらえよう支援している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署との連携をもちながらの避難訓練を実施している。又運営推進会議において、災害対策について話し合いがもたれ、地域の方(60名以上)の協力体制がもてるような体制がある。今後、地域の方の協力を得ての避難訓練や、夜間帯を想定しての避難訓練の実施を予定している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた食事の提供と、食事、水分量をチェックし、記録しており、おおまかに把握され支援している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての勉強会が開催され、マニュアルがある。又感染症に対しての近隣の情報を収集したり、動向を把握しながら、早期発見、予防・対策に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間が広く、食事用のテーブル、畳、ソファが設置され、個々に好きな場所で過ごせるよう設定されている。しかし、共有空間からトイレや洗面台が見える位置にあり、トイレがカーテンで仕切られている為か訪問時尿臭が感じられた。</p>		<p>更に居心地の良い空間を提供できるよう、ハード面ではあるが、プライバシーの観点からも扉の設定やソファ等の位置の見直し、臭い対策等配慮して頂くことが望まれる。</p>
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者にとって、使いやすい家具を設定したり、馴染みの家具が置かれ、利用者個々に合わせた環境作りが行われ居心地の良い場所になっている。利用者が自分の部屋だという意識を持って、安心して生活して頂けるよう工夫されている。</p>		

 は、重点項目。